



年頭ご挨拶

富士通株式会社 代表取締役社長

秋草直之

新年を迎え一言ご挨拶申し上げます。皆様にとりまして、新しい年が明るく実り多い年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は、米国、日本全体で景気が低迷し、IT（情報技術）投資が抑制され、富士通グループを取り巻く事業環境はかつてない程の厳しい年となりました。今年は、こういった事業環境を踏まえ、全社員が富士通の成長の原点とも言える「挑戦者に無理という言葉はない」との気概を持ち一丸となって取り組んでいく所存であります。何卒皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、現在、社会のあらゆる場面で、ITを活用した新たな変革が全世界に起こりつつあり、IT産業は今後の超高速・大容量ネットワーク社会を支える基幹産業として中長期的に最も成長が期待されております。

こうしたなかで、富士通グループは継続した成長および収益性の改善を目指し、今年は主に、以下の施策に取り組んでまいります。

まず、ソフトウェア・サービスビジネスにおきましては、市場全体でソフト・サービスの比重が高まるなか、全事業のソフト・サービス化を一層推進してまいります。さらに、今年は、従来の発想にとらわれない新しいIT活用の提案「アプリケーション・ブレイクスルー」を進めてまいります。お客様のパートナーとして新たなアプリケーションの企画、開発、運用により、ITの進歩と利用方法のギャップを埋めていくことを目指していきます。具体的には、「新しいアプリケーションの領域の創出」「新しいアプリケーションの使い方（広い意味でのアウトソーシングや新しい集中処理など）」「新しいアプリケーションの作り方」に取り組んでまいります。

また、プラットフォームビジネスでは、「ネットワーク」、「サーバ」、「ストレージ」、「ミドルウェア」を有機的に統合する新プラットフォームコンセプト“TRIOLE”を昨年ご提案いたしました。今年は、このコンセプトに基づくシステムをお客様にご提供し、お客様のビジネスの早期立ち上げ、継続性と効率化、業務プロセスの高度化に大いに貢献していきたいと考えております。

さらに、電子デバイスビジネスにおきましては、サーバ、ネットワーク機器などの競争力を左右する重要なテクノロジーである最先端デバイスの開発を「あきる野テクノロジーセンター」に集約してきましたが、90 nm CMOS技術などの開発の成果も出始めております。今後も、より一層の開発スピードアップと効率化を進めてまいります。

一方、地球環境問題につきましても、経営上の重要課題として位置付け「すべてをグリーンに」をスローガンにグループ全体での環境活動を推進してまいります。今年は、ITを駆使した循環型社会の実現に向け、環境を意識したお客様の経営に対応するグリーン製品の設計や情報提供システム構築サービスなどの環境ソリューションの充実にも力を入れてまいります。

このように、富士通グループは、今後とも、最先端かつ高性能、高信頼を備えた強いテクノロジーをベースに、品質の高い製品、サービスによるトータルソリューションのご提供とともに、地球環境活動を通じて、日本の産業力強化に貢献していきたいと考えております。

これからも、富士通製品・サービスをご愛顧頂きますとともに、「雑誌FUJITSU」のご愛読も賜りますようお願い申し上げます。